

彩星だより



彩星の会・若年認知症家族会 会報 第17

号

平成17年11月発行

9月の定例会

平成17年9月25日（日）午後1時より日本財団の会議室において、樋口さんの落ち着いた進行で9月の定例会が開催されました。参加人数は100名余と盛会になりました。ミニ講演は宮永先生から「認知症と家族会」という内容でお話をいただき、その事例として干場副代表から北海道北竜町の元町長さんと地域の取り組みの話と、その町に同行したMさんの感想などを伺いました。その後の交流会は7グループに分かれ、活発な意見交換がなされました。最後に各グループからの発表があり、問題提起、情報のご披露と有意義な時間が持てたと思います。

その間ご本人達は、まず近隣の散策へ。周辺の地理に詳しいサポーター松村さんの先導で都心の町を歩き、サントリーホール前のオープンカフェでおしゃれにコーヒータイム。「臨床福祉専門学校」の学生さんが10数人サポーターとして参加してくれ、メンバーさんと一対一の万全の体制が取れました。外は風が冷たくなったため会議室に戻ってきて、定例会とは別室でスポーツチャンバラを体験しました。先の方に空気の入った柔らかい剣を使って打ち合うニュースポーツで、とても気軽にできるので一度やってみようと思っていた高橋が用具を持ってきました。今回はサポーターに面をつけて「的」となってもらい、メンバーさんに打ち込んでもらいました。どうかなと少し心配だったのですが、いざ始めたら8割方の方が喜んでやってくれました。ふだんあまり笑わない方も笑顔を見せ、「昔剣道をなさってましたね」との言葉に満足そうにうなずく方もいて、体力を持って余しがちの若年の方にはスポーツ系のプログラムも必要だと改めて認識しました。今度、家族の方もストレス解消にやりましょう！

[ホームページへ](#)

ミニ講演

認知症と家族会・・・宮永和夫先生

家族会は東京ではの会（200人）、奈良はの会（100人）、大阪はの会（100人）があります。四国の方では高齢者込みで40人くらい、朱雀の会の徳山支部があります。北海道の方でも、干場さんが行って家族会が出来そうです。認知症は大きく分けて4つ、血管性、アルツハイマー病、ピック病、レビー小体です。彩星の会ではピック病も多く、少し性格が変わったかなということで記憶障害とは少し違っていています。若い方がなりやすいです。高齢者専門で診ている先生は判らないで変わったアルツハイマーと診断しています。なかなか診断がつかないのが現状です。若年の場合は経済的な問題が一番出てきますが、ここでは東京女子医大ソーシャルワーカーの木舟さんがいて制度的な問題について相談に応じています。次に家族。特に子どもさん達の問題もあり、子ども会も別枠で設置して情報交換することも考えています。家族のことについても相談対応していますので、利用してください。

家族会は当初深刻な雰囲気でしたが、情報交換により気持ちも変り笑いも出てきています。二次会は別名ノミニュケーションといい、みんながより身近になり当事者も飲んでいきます。飲みすぎについてはちゃんと見ていますから大丈夫です。この会を出来るだけ問題解決の場として使ってください。ここでいろいろなことを聞いてください。

若年認知症はマスコミで「旬」のようになっていますが、映画「明日の記憶」が来春公開され、韓国映画「私の頭の中の消しゴム」が封切られています。韓国の方が少子高齢化が激しく、若年認知症の問題も進んでいるようです。若い人達もいろいろこの問題について考え始めている「きざし」が見えてきています。2～3年の間に各種の問題を解決してちゃんと対応できる社会にしていきたいと考えています。一緒に考え行動して行きましょう。

北海道では地域で認知症の人達を見ていこうとしています。それについて干場さんにバトンタッチします。
(文責 内田)

地域で見守る・・・干場功

皆の力で世の中を変えられたらとの思いからのことです。

たまたま私の生まれ故郷の町長の一関さんが若年認知症にかかれ町民の方に宣告、町長を辞職されました。昨年11月に私の母が亡くなりその葬儀に参列して下さった一関さんにはじめてお会いし、奥様から1年目の診察で主治医が環境のいいところに住んでいるせいか病状が進んでいないよのだとの話を聞き。町の方々のあたたかさを感じて帰ってきました。しかし、今年5月父が亡くなり帰った時、入院されていると聞きびっくりしました、そんなことから今回お忙しい中宮永先生にお願いし、また社会福祉協議会の協力も得て講演会を開催させていただきました。社協・町・商工会の皆様にも大変お世話になりました。北海道新聞も若年認知症のキャンペーンをしたいとのことで東京で取材を受けていましたので、北竜町での講演会の様子も取材していただき道内での報道につながりました。

今回のことで一関さんのこれからの町での生活にどう変化があるかはわかりませんが、今後の北海道において若年認知症に対する対応は変わっていくことは間違いがないと思います。来年には札幌において講演会を予定していますし、それに伴い各地に家族会が出来るようにしていきたいと思っています。各地にサポーターが育ち本人がいつまでもその地で静かに安らげる場が作ればいいなと思います。

都会ではなかなか厳しい面がありますが、若年認知症のグループホームの立ち上げの話も出てきています、少しでも良い方向に動けばと考えています

また、スタープラス（ミニデイサービス）のやり方について参考にするため、アラジンの牧野さんの紹介で造形アートセラピーをやっている日本臨床美術協会に行ってきました。事務局長さんがとても若年認知症の置かれている立場の大変さを理解されていて、ぜひ協力させて欲しいとのことでした。その後、埼玉県立大学の野川教授のお誘いを受け、Oさん、○さん、Mさんとで見学に行っていました。スタープラスも試行錯誤していますが、一人ひとりにあったやり方、プログラムを作りステップを踏み進めていく必要があります。これからどういう方向に進めていくかを考えていきたいと思います。

北海道へ行って・・・R.M.

還暦を迎えどこかい所へ行きたいと思っていたところに北海道行きの話があり、干場さんのエスコート付きだったのですぐに乗りました。この旅行は神様からのプレゼントだと感じています。人間の癒しは言葉もあれば大自然もあると思います。旭川は東京のビル群ではなく地平線が見える景観で、まるで外国に来たような気分になりました。言葉ではなく人それぞれ感じるものですが、大自然の懐に抱かれ故郷はこれかなと感じました。北海道の人の喜ばせ方は大自然の中で育った人が出来るもので暖かなものです。一人でも難しい病気になったら、なにをしたら良いのかじっと顔を見て、どうしたら良いのかと思考を巡らすようです。東京は学ぶ機会がありますが、北海道では大自然と暖かい人情があり町全体が家族となる関係があり、それが北海道の皆さんの財産だと思います。干場さんが「北海道で・・・」と言われることが分かる様な気がします。家族会でのご尽力に感謝すると同時に、北海道のこの感じがそのまま出ているように感じます。

(文責 内田)

旅行の思い出

10月22日(土)～23日(日)の1泊2日で、山梨県石和温泉に行ってきました。会の3回目の旅行です。出発の朝は小雨がぱらついていましたが、車中の40名の熱気でバスが進むに連れ晴れてきました。山梨名物ほうとうの昼食を平らげ、ハーブ庭園を散策し、信玄餅工場では詰め放題に挑戦し、無事宿舎の「京水荘」に着きました。メンバーには一人ずつサポーターがつき、ゆっくり温泉にも入れました。1回目も石和でしたが、その時にお世話になった方も含め15名の作業療法士の方が、サポーターとして参加してくれました。(ご手配下さった比留間先生、ありがとうございました)

さて総勢60名でお楽しみの大宴会の始まりです。舞台上でカラオケが始まると、いつの間にか大集合の大合唱。恒例の(?)紙吹雪の舞う中、盛り上がること、盛り上がること!!ちょうど今年が結婚25周年だというS夫妻に花束とお祝いの言葉が贈られ、お二人は感激していました。その後別室での二次会、部屋でのまたは廊下での三次会と夜は更けていきました。

翌日は忍野八海へ。空は雲ひとつない快晴。裾をひいた美しい富士山が望めました。御殿場へ出て、釜飯の昼食。道路の込み具合も考慮し、午後の見学予定を変更しそのまま東名高速道路に乗ることにしました。別れ際に、一列に並んでくれたサポーターたちと一人ずつ握手。本当にお世話になりました。

(え)

◆ 参加者より ◆

サポーターに感謝

家族 木A.K.

先日の石和温泉は彩星の会に入会し初めての旅行でした。行きは心配で、皆さんに迷惑をかけないか、皆と夫が打解けてくれるか、等々。朝の雨もあり緊張しましたが、新宿で家族の方と会い、バスに乗り皆さんと一緒に became 楽しくなりました。途中で雨も上がり、食事の頃は夫もリラックスして若いサポートの人にニコニコと寄っていき、私の心配は取り越し苦労でした！何と言っても会の方々の気配り、優しい話しかけ、サポートの人達の気配りには驚くことばかり。現地ではさらにサポートの方が加わり一人ずつに付き、ラッキーなことに島根県の方が夫に付いてくれました。鳥取県出身の夫は大変嬉しそうに。子供の頃に浜辺で遊んだことなど思い出し、言葉は上手く話せないけれど目は輝いていました。



↑ 盛り上がる宴会の舞台

その方に温泉に入れていただき、父の背中を流しているようだとおっしゃっていただき、子どものいない私達には願っても出来ないこと。まして病気になってからは、旅行も思うようには行けません。夜の宴会は唄に踊りに更に盛り上がりました。同室のご主人の唄はプロ並み。11月3日の「なんでも介護文化祭」にはゲスト出演とのこと、楽しみです。また、結婚25周年のご夫婦に花束贈呈。皆さんから喝采を受け、しっかりしたお礼の言葉に心からおめでとう。楽しいご夫婦で場を盛り上げてくださいました。

若いサポートの方、会の方の先導で皆が舞台上がり、唄に合わせて踊りました。我が夫の初めて見るテンポのずれた振りに涙が出そうになりました。でも家族の方が持って来た(!) ステージ帽子に大笑い。涙も忘れた感動の宴会でした。深夜には同室の家族の方と温泉に入り、別の家族の方々とも昔からの友達のように語り明かしました。家族のプロの先生にお言葉に甘えて腰のマッサージまでしていただき、ありがとうございました。帰りには車窓から富士山が素晴らしく見えて、皆にエールを送ってくれた感じでした。本当に今回旅行に参加できて良かった。先生方、会の方、サポートの方々、お疲れ様でした。忘れられない旅をありがとうございました。次回も是非参加したいと思います。

主人が手を叩いて喜んだ！

家族 A.Y.

久しぶりの温泉でした。大型バスに、ワイワイ泊まる、で修学旅行を思い出しました。前日から、寒いといけないなと、長袖・マフラー・セーター等々詰め込んで、天気予報は雨、傘も入れなくちゃと、1泊とは思えないような荷物になってしまいました。私どもは、今年の6月から彩星の会に参加させていただくようになりました。この会の存在は、数年前からインターネットで知ってはいたのですが、気になりながらそのままになっていました。主人が診察していただいている病院の家族会の方に教えていただき、やっと門をたたきました。参加初日、会の皆様の暖かい笑顔に迎えられて、初めはいぶかしがっていた主人が、帰る頃には、「また、来ようね！」と、楽しそうに話をしてくれました。私もそれまで一人で気をもんでいましたが、同じ病気を持つ患者の家族ということで、初めてお会いした方々に暖かく迎えていただき、優しい気配りをしていただき、私も一時の安らぎをもらいました。毎月のスタープラスが楽しみで、何をおいても（仕事をお休みして）参加させていただいております。

本題に戻ります。石和温泉は初めてでした。ハーブ園で、アトピーに効くという化粧水を買って（知り合いの分も）お菓子工場では詰め放題にチャレンジ、結果は13個でした。二日目は、すばらしいお天気に恵まれて、本当に気高く美しい富士山を堪能いたしました。言葉が話せなくなってきた主人が「おーおー」と手を叩いて喜ぶ様子に、胸が熱くなりました。言葉は話せなくても、感情は前より豊かになっているようです、昔の思い出の歌に感動して涙ぐむようになりました。久しぶりに足を伸ばして、温泉にも入れたし、宴会も楽しかったし、お世話役の皆さんの心配りのお陰で、帰りもスムーズに帰宅できました。本当にありがとうございました。これからも末永いおつき合いをよろしく願います。

思い出深い旅行に

家族 K.F.

彩星の会に入ってまもなく、今回の旅行に初参加しましたので、私と妻を初めて知った方も多かったと思います。みなさんのあたたかい心配り、ありがとうございました。バスの中で笑いがあちらこちらから聞こえて、とても良い雰囲気になり話も弾むようになりました。見学を重ねるうちに妻もみなさんと打ち解けて、こんなふう明るく振舞う妻を見て、旅行に来て良かったなあ、これが大切なんだなあ、と思いました。石和温泉に着いて、サポーターたちと合流して、またいちだんと気持ちが盛り上がり、温泉につかりながら夜の宴会が楽しみでした。「今日は大いに楽しみましょう」の乾杯で始まった宴会。歌って踊って花吹雪。サポーターたちとの息がぴったり合って、カラオケも花吹雪が降ったあたりから盛り上がり、舞台にみんな上がってきて、歌っている人と一緒になって盛り上がりました。妻も歌ってのりまくっていました。私も妻とデュエットして、こんなに盛り上がったのは何年ぶりでしょうか！最後にみんなで肩を組み合って歌い、本当にみんながひとつになっているんだと感じました。そして部屋に戻ってさあ寝ようとした時、妻がタクシーで大森に帰ると言い出してびっくりしました。まさかそんなことを言い出すとは思ってもみませんでした。ロビーにいらした宮永先生に「山梨の石和温泉に来ているんだよ」と説得してもらい、その場は収まったのですが、10分もたたない内にまた帰ると言い出しました。妻が落ち着くまでと隣に寝たところ、私のほうが寝込んでしまい朝起きてびっくり。大変申し訳なく思っています。妻は何ごともなかったかのように朝食をとっていました。妻はしっかりしているように見えたのですが、これからは受け止めていかなければいけないと思いました。いろいろありましたが私と妻には思い出深い旅行でした。お世話になった皆様ありがとうございました。これからも先が見えませんが前向きでがんばっていきたいと思います。

市民発！「介護なんでも文化祭」大盛況でした！！



いました。

皆さん、ご参加ありがとうございました

去る11月3日新宿のスペースセブンイベント会場にて、**市民が創る市民のためのイベント「介護なんでも文化祭」**が開催されました。これは、首都圏を中心とした介護者の会や家族会のネットワークとNPO法人アラジンが協働して企画・実施したものです。彩星の会からは干場さんが会を代表し、実行委員として4月ごろから企画の準備、運営に携わってくださっていました。当日は、作品展示コーナーに〇〇さんがすばらしい絵画を出展され、またコンサート会場では、Kさん親子によるシャンソンの披露、さらにSさんによる「いとしのエリー」の熱唱がラストを飾り、会場に詰めかけた方々を希望と感動の渦に巻き込んでくださいました。終了後ご家族からは「おかげで、（本人は）とても張りのある毎日を過ごせました」とお声かけをいただき、大変嬉しい限りでした。（きっと当日を迎えるまでは、さぞかし緊張の日々をお過ごしだったことでしょう・・・すみませんでした。）おかげさまで、イベント自体は、「介護を市民文化に塗り替えよう！」という家族会リーダー達との共通の願いのもと、多くの方々のご賛同とご好評をいただきながら、一連のアピールの場の役目も果たすことができ、無事成功裡に終了することができました。先般、彩星の会のみなさまには、多くのあたたかいご寄付をいただきましたこと、心より感謝いたしております。この場をお借りして御礼申しあげます。また会場では、先日の旅行の直後ということもあり、会の皆さんがそこそこで輪になり、肩をたたきあいながら談笑する姿がみかけられました。あらためて、会の存在の大きさと絆を感じた一日でした。お忙しい中、個別相談に駆けつけてくださった宮永先生、高橋先生、またスタッフとして一日ご活躍くださいました高橋恵美子さん、小澤さん、本当にありがとうございました。来年も、ぜひさらにもっと楽しく有意義なイベントになりますよう、みなさまとご一緒に夢を膨らませていきたいと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

（アラジン 牧野史子）

なお、〇〇さん作の「絵はがき」セットを彩星の会として販売しております。ぜひ皆さんPRに一役かってくださいませ。3枚 500円 ・ ・ ご用命は、彩星の会事務局まで。

☆ 出版物のご案内

「記憶が消えていく～アルツハイマー病患者が自ら語る」

著者：一関 開 治 (元 北竜町長) 二見書房刊 税別 1500円

☆ 第1回 ピック病研究会講演会「認知症って何ですか？」

日 時：12月3日(土) 13:30～17:30

会 場：東京コンファランスセンター品川 5F 大ホール

港区港南1-9-36 アレア品川 03-6717-7000

講演1：「ピック病とは？」 田邊敬貴先生 (愛媛大学医学部神経精神医学講座)

講演2：「行動が壊れるとき」 Dr. David Neary (Hope Hospital, UK)

「言語が壊れるとき」 Dr. Julie S. Snowden (Hope Hospital, UK)

講演3：患者家族(彩星の会会員)より

会 費：1,000円

※どなたでもどうぞ！

☆ 11月の定例会のご案内

日時：11月27日(日) 午後1時～4時

- ミニ講演 「社会資源、制度について」

講師：木舟雅子氏 (東京女子医大ソーシャルワーカー)

・交流会

- ・希望により個別相談

- ・メンバー(ご本人)は別行動

会場：みなとNPOハウス 4階 会議室

港区六本木4-7-14

地下鉄日比谷線・大江戸線「六本木」下車 6番出口

俳優座の裏手 元三河台中学校(事務局のある建物です)

予約、相談は

彩星の会 東京事務局

住所：〒106-0032 東京都港区六本木4-7-14

みなとNPOハウス2F アラジン内

電話/FAX：03-3403-9050

(金曜日のみ電話対応,

その他の日は留守電, FAX対応)

eメール：star2003@smile.ocn.ne.jp

秋は、旅行に講習会にとイベントが続きました。メディアの取材も目白押し(?)です。

今回から、内田さんが編集に加わるようになりました。強力な助っ人を得て、今後に乞うご期待、です。 (え)

発行：彩星の会・若年認知症家族会

平成17年11月18日

編集：宮永和夫、高橋恵美子、内田良禾

[ホームページへ](#)